

6. 感染予防

エキノコックスが体内に入った直後は検査をしても感染がわからないので、まずは、予防が第一です。

エキノコックスに感染しないよう次のことを心がけましょう。

- ① 外から帰ったら必ず手を洗うこと。



- ② キツネに餌付けをしたり、触ったりしないこと。

- ③ キツネが近寄らないよう、生ゴミ等は適正に処理すること。

- ④ 飼い犬が野ネズミを食べないように、放し飼いにしたり野原や公園で放さないようにすること。
また、散歩中に拾い食いをさせないこと。



- ⑤ 山菜や野の果実等は十分に加熱もしくはよく水洗いしてから食べること。

- ⑥ 沢水等のなまの水は飲まないこと。
飲む場合は煮沸すること。

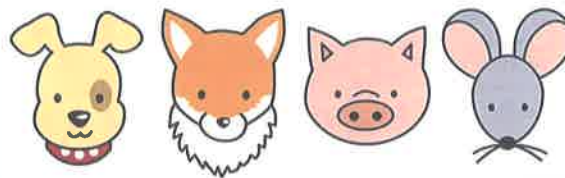
エキノコックス症

早期発見と
早期治療が大切です。

エキノコックス症は薬による治療もありますが、根治的な治療は、手術で病巣を切除することです。その場合も、早い時期ほど手術が容易で、完全な治療が可能です。

一般の方に加え、特に、キツネに触ったことのある人や犬の飼い主など、感染するおそれのある人は、各市町村が実施する**健康診断（血液検査）を積極的に受診しましょう。**

また、この健康診断で感染の疑いがあった人は、道が委託している医療機関で精密検査を受けることができますので、詳しいことは、市町村又は最寄りの保健所にご相談ください。



H24

エキノコックス症の

知識 と 予防



エキノコックス症を予防するために、
正しい知識を身につけましょう。

1. 基礎知識

私たちの住んでいる北海道には、エキノコックス症という他の都府県ではあまり見られない病気があります。この病気はエキノコックスという名前の寄生虫が主に肝臓に寄生しておこる病気で、道内では毎年20名程度の患者が見つっています。

エキノコックス症を予防するために、正しい知識を身につけましょう。

2. 感染経路

私たち人間は、虫卵に汚染された野菜、山菜や沢水を直接口にしたり、虫卵に汚染された手指を介して感染し、野ネズミと同様にエキノコックスの幼虫が肝臓に寄生します。

人から人に感染したり、野ネズミから人に感染することはありません。

3. 症状

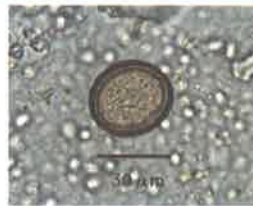
人にエキノコックスが感染しても、すぐには自覚症状が現れません。無症状のまま見つかる人もいますが、数年から10数年の潜伏期間を経て、上腹部の不快感や膨満感が出現し、しだいに肝機能障害に伴う疲れやすさや黄疸等の症状が現れ、放っておくと転移したり、命にかかわることもあります。

4. エキノコックス

成虫
体長3mmほどの細長く白い虫です。



卵
直径0.03mmの球形で肉眼では見えません。



幼虫
エゾヤチネズミの肝臓に寄生した幼虫です。袋のような形です。



5. 寄生のサイクル

エキノコックスは、自然界においては、主にキツネと野ネズミに寄生しています。

① 成虫は、キツネの腸に寄生して卵を産み、その卵が糞と一緒に排出され、野ネズミが木の芽などと一緒にこの卵を食べると、野ネズミの体内で卵がかえって幼虫となり、肝臓に寄生します。

② この幼虫が寄生している野ネズミをキツネが食べると、キツネの腸の中で幼虫が成虫になります。

エキノコックスは通常、キツネと野ネズミの「食べる」「食べられる」の関係の中で生きています。

また、犬もキツネ同様に野ネズミを食べると感染しますので、飼い犬の飼い方には注意が必要です。

